

センター便り



臨床研究研修センター長より

「え？本当にいいんですか。 何が起こってもいいんですか」

臨床研究研修センター長 しのさき かずひろ
篠崎 和弘

今年も70名の新入職者を迎えることができ大変うれしく思います。浅香山病院ではさまざまな多職種のチームが活躍していますが、「患者さんを大切にすること」「チームのそれぞれが仕事に誇りを持っていること」「現状に満足しないチームであること」が自慢です。当院の歴史は古く、1922年に精神科病院として創立され以来日本を代表する病院として歩んできました。創立直後には当時、世界の精神医学をリードしていたドイツから医師を1年間招聘したこともありました。1960年からは内科・外科などを持つ総合病院として成長し、今年2024年3月からは紹介受診重点医療機関として地域医療を託されています。先輩から受け継いだこの病院で存分に活躍してくださることを願っています。

長い人生のなかで仕事がいとも順調とは限りません。仕事に余裕が出てきたら仕事をルーチン化させようとしていないか振り返ってみてください。ルーチン化させないで専門職としての自分を成長させてください。そこで、看護部では新人むけの研修会を10年前からしています。ご担当の遠藤淑美・鳥取看護大教授がその取り組みを浅香山病院医学雑誌第3号（「看護を耕す 一省察と語りの文化」）に紹介しておられますので長くなりますが、改変してご紹介します。3号発行の折にはぜひ論文に目を通してください。

研修会では新人看護師が自分の看護エピソードを発表するが、ある新人看護師は受け持ち患者が外泊から帰院せず翌日迎えに行っても何とか事なきを得たエピソードを発表することにした。そこで師長に事前に指導を受けた。新人は「患者さんが帰ってきてとても嬉しかった。安心した」と、当たり障りのない感想を書いていた。師長は「この子らしくない。そんな反応は患者さんが帰ってきた時にしてなかった。上手くまとまりすぎている」と違和感を持った。

以下、論文にあるエピソードを会話形式に改変して紹介します。

師長：これは自分の気持ちに素直に書いたの？

新人：ちょっとよそ行きです。（心の中：師長さんはやっぱり鋭い）

師長：正直に発表したら

新人：え？本当にいいんですか。何が起こってもいいんですか。

師長：それはしょうがないでしょう。自分がいいと思ってやった結果なんだから。その時に考えましょう。

後日、新人は「離院したと聞いたときは自分が怒られるんじゃないかと思い、患者が無事帰棟したときは怒られずに済んでよかったと思った」と書いてきた。

新人：これはやっぱり私らしい。でもこんな自虐的で良いのでしょうか。他の新人さんがいっぱいいる前で話して

師長：（心の中：この新人は患者さんの視点ではなく、自分中心になってしまう傾向があることを心配し4月から繰り返し面接してきた。「この機会にまた触れてみよう。もし新人が傷ついてもフォローしよう」と腹を括った。）これがあなたの本質を表していると思うよ。でも、師長である私からこんなことを言われるのはつらかったよね。

新人：そうでもない。

師長：じゃあどうして最初から出せなかったのかな。

新人：患者さんのことをまずは考えなくちゃいけないのに、自分のことを考えちゃう人だって思われちゃう。

師長：きっと自分でもそういうところに気づいていたよね（「いい自分も悪い自分も受け入れられるようになった」と新人の成長を感じた）。

きれいごとで済ませていたらどうなっていたでしょう。師長の指導によって、ひな鳥が自分の翼で大空を飛び始めた姿を見るようです。

エッセイ欄では「感情労働」をテーマとしました。きれいごとでは済まさないプロフェッショナルの姿をみることができます。新入職者の皆様が初心を見失いそうになったおりに参考になるエッセイのかずかずです。浅香山病院医学雑誌は各職場にお届けしています。ぜひ手に取ってみてください。

浅香山病院におけるサブスペシャリティ



内科部門について

内科部長 田村 聡一郎

当院では、各科の医師が互いに協力しながら、患者様の健康に寄与すべく日々診療を行っています。来院された患者様の病状を評価し、それぞれの病状に合った治療を、各科がその専門性を生かして行います。その専門性を担保・証明するものとして「専門医資格」があります。日本専門医機構によりますと、専門医とは、「それぞれの診療領域における適切な教育を受けて、十分な知識・経験を持ち患者から信頼される標準的な医療を提供できるとともに、先端的な医療を理解し情報を提供できる医師」と定義されます。当院でも多数の専門医資格を持った医師が診療に当たっており、専門性の高い治療を患者様に提供することができています。

内科、外科といった大きな枠組みだけでなく、各科内でも細かい専門性やサブスペシャリティが分かれており、それらにもそれぞれ専門医の資格が設けられていますので、同じ科内でもより病状に合った専門性の高い治療を選択することができます。

さて、このような各科専門医やサブスペシャリティに関して、本稿では当院内科の3本の柱とも言える消化器内科、呼吸器内科、循環器内科について一部を紹介申し上げます。

消化器内科においては、代表的なスペシャリティとして消化器内視鏡があります。当院は日本消化器内視鏡学会指導施設であり、日本消化器内視鏡学会専門医が複数在籍しております。内視鏡センターが設置されており、上部・下部内視鏡において、正確な評価・治療を患者様に提供できる環境となっています。

呼吸器内科においては、気管支鏡がスペシャリティとして挙げられます。当院は日本呼吸器

内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設であり、気管支鏡専門医も在籍しております。また、2023年に超音波気管支鏡検査が導入されており、最新鋭の機器も用いた質の高い検査・治療を行えます。また、呼吸器内科は感染症を扱うことが多く、当院にも厚労省認定感染制御医師が在籍しており、感染症の取り扱いや治療についても専門性を発揮できる環境にあります。

循環器内科においては、心臓カテーテルが代表的なスペシャリティですが、当院には日本心血管インターベンション治療学会指導医・認定医が複数在籍しており、また近年は最新のアンギオ装置を導入したこともあり、高水準な治療の実施が可能です。最も一般的な心血管疾患ともいえる高血圧に関しても日本高血圧学会専門医が在籍しており、日進月歩の高血圧治療に順応した治療を患者様に提供できます。

このように、各科で専門性の高い治療が行える環境となっております。

加えて、近年は新専門医制度が整備され、これまでと異なる専攻医・専門医取得のための経験が要求されるようになりました。当院は、内科、外科をはじめとして、診療を行っているほとんどの科について専門医研修（教育）施設に認定されており、専門性を発揮した治療を行うだけでなく、これから専門医等の取得を目指す医師にとって幅広く必要な経験を積むことができる施設となっております。

これからも、各科で専門性を生かした質の高い医療を提供するとともに、資格取得を目指す先生方のご経験の一助になればと考えております。



精神科認定看護師について

看護部 副部長 さいとう ゆういち
齋藤 雄一

【精神科認定看護師とは】

精神科認定看護師とは、日本精神科看護協会（以下協会）で定められた精神科認定看護師教育課程を修了した上で本制度における認定審査に合格し、精神科の看護領域において優れた看護能力、知識を有すると認められた者とされています。

協会から示されている役割として

1. すぐれた看護実践能力を用いて、質の高い精神科看護を実践すること。
 2. 精神科看護に関する相談に応じること。
 3. 精神科看護に関する指導を行うこと。
 4. 精神科看護に関する知識の発展に貢献すること。
- が、挙げられています。

協会では1995年に本制度を創設し、精神科認定看護師を養成していますが、創設当時と現在では大きく変化してきています。発足当初は、4分野（精神科救急・急性期看護、精神科リハビリテーション看護、思春期・青年期精神科看護、老年期精神科看護）に分かれていました。

その後2007年に精神科認定看護師制度が改正され、より専門的知識と技術の向上を図る目的で10領域（行動制限最小化看護、うつ病看護、退院調整、精神科身体合併症看護、司法精神看護、精神科薬物療法看護、児童・思春期精神科看護、精神科訪問看護、老年期精神障害看護、薬物・アルコール依存症看護）となりました。

現在は、2015年度の保健師助産師看護師法（保助看法）改正において看護師が在宅医療の場等で行う業務独占行為である診療補助行為の範囲が22項目38行為に渡って拡張され特定行為として法的に認められたため、10の専攻領域を1つに統合されました。

現在、精神科認定看護師は全国で902名

（2023年4月時点）が登録されています。

【浅香山病院の精神科認定看護師】

当院では、精神科認定看護師が5名在籍していますので紹介します。

氏名	部署	職位	備考
島津 聖子	B館3階	師長	退院調整
甲斐 あゆみ	A館8階	師長	精神科身体合併症看護
大谷 美希	A館6階	主任	新制度
大谷 朋耶	B館2階	主任	新制度
齋藤 雄一	看護部	副部長	行動制限最小化看護

我々、精神科認定看護師は臨床現場での困りごとなどをコンサルテーションとして取り扱うことが多々あります。相談者が満足していただける助言や解決に導くために

- ① 依頼に対し誠実・丁寧に扱う
- ② 必要時は、複数の精神科認定看護師や他の領域の認定看護師とコラボレーション

を心掛けています。

今回の「センター便り」をきっかけにさらにお声かけ頂けるように努力していきますので、よろしくお願いします。

最後に2025年度から、精神科認定看護師カリキュラムに加えて特定行為カリキュラムも受講できるようになるのでさらに需要が増えていくと思います。取得を考えている方や精神科認定看護師の活動に興味のある方は、いつでも声をかけてください。

浅香山病院 学会・研究会発表等

学会・研究会

(2024年1月～2024年3月実績)

	種類	発表(演題)名	発表者名	所属	会 名	発表年月日
1	学会・研究会発表	当院の読影補助の取り組み	松本 侑司	放	第23回 南大阪CT研究会	2024/1/20
2		大腿骨頸部骨折術後患者の独歩連続歩行距離延長を目的とした理学療法	浜田 拓空	リ	大阪府理学療法士会 第4回 南支部新人症例発表会	2024/1/21
3		乳がん再発に際し手術を強く拒否し意思決定支援を要した慢性期統合失調症の一例	木藤 友美子、竹田 佳世、小嶋 美希、徳原 太豪、正木 慶大、谷口 典男	精外	第133回 近畿精神神経学会	2024/2/10
4		ドネペジル投与後にビサ徴候を発症したレビー小体型認知症の一例	堀井 奈都子、繁信 和恵、江藤 光弘、篠崎 和弘、谷口 典男	精	第133回 近畿精神神経学会	2024/2/10
5		進行性非流暢精失語で発症し、行動障害型前頭側頭型認知症の症状を呈し、進行期に運動ニューロン疾患を併発した一例	清水 秀一、繁信 和恵、埜本 大喜、篠崎 和弘、谷口 典男、池田 学	精	第133回 近畿精神神経学会	2024/2/10
6		前頭側頭型認知症の入院直後から隔離を防ぐための認知症病棟での工夫	土井 茜、繁信 和恵、奥田 直広、篠崎 和弘、谷口 典男	精	第133回 近畿精神神経学会	2024/2/10
7		死の空想に囚われた精神病患者との心理療法 ー恐怖に覆い隠されていた悲しみー	山岸 礼門	心	近畿精神・心理療法研究会	2024/2/10
8		統合失調症患者との心理面接過程 ー語られていない不安と恐怖ー	上山 真弓	心	第2回ワークディスカッション研究会	2024/2/12
9		ノーリフティングケア実践報告	川越 香織	看	ATCエイジレスセンター「ノーリフティングケアセミナー&マネジメント研修 実践報告会」	2024/2/23
10		メタ認知トレーニングを通して思考や行動パターンに変化がみられた事例	川村 明代、佐古 真紀	デ	第28回日本デイケア学会年次大会福岡大会	2024/3/17
11		非流暢性発話を認めたアルツハイマー型認知症の一例	中山 愛梨	心	第104回 神経心理症例検討会	2024/3/23
12	講演・講師・座長	精神科における隔離・拘束について(講義・実演)	小瀧 和人、上田 一輝	看	大和大学「精神看護学演習」	2024/1/10
13		看護計画立案	三好 豊子	看	大阪府社会福祉事業団「令和5年度 堺市看護職員認知症対応力向上研修」	2024/1/10
14		ソーシャルワーカーのための就労支援ハンドブック	谷奥 大地	就	ソーシャルワーク視点による精神障害者のための就労支援研修	2024/1/13 2024/2/17
15		就労支援におけるソーシャルワークの視点を考える	森 克彦(進行)	就	ソーシャルワーク視点による精神障害者のための就労支援研修	2024/1/13 2024/2/17
16		精神障害作業療法の展開方法	川村 明代	デ	和歌山県作業療法士会 現職者選択研修	2024/1/16
17		法改正を踏まえた行動制限最小化	齋藤 雄一	看	一般社団法人日本精神科看護協会 大阪府支部「行動制限最小化研修会」	2024/1/27
18		地域移行を考える ー権利擁護の視点からー	島津 聖子	看	医療法人清順堂 ためなが温泉病院 「長期入院者の地域移行の研修会」	2024/2/28
19		明日から使える園芸活動	南 裕未	リ	大阪府作業療法士会堺市ブロック研修会	2024/3/2
20		浅香山病院での精神科看護の実践	島津 聖子	看	医療法人養和会 養和病院「多職種・多機関連携による地域連携体制整備事業に係る研修会」	2024/3/13
21		長期入院患者の退院支援に取り組むにあたっての必要な視点とは	島津 聖子	看	医療法人聖和錦秀会 阪和いずみ病院 「長期入院者の地域移行の研修会」	2024/3/15
22		「COPDの未来を考える ～健康日本21を見据えて～」	丸山 直美	内	AZ COPD seminar～1万6000人の未来～	2024/3/28
23	その他	褥瘡予防や褥瘡発生時のケアの実践	森本 亜希子(インストラクター)	看	公益社団法人大阪府看護協会 「今日から実践できる褥瘡ケア③」	2024/1/25,26
24		グループワークによる事例検討および全体発表	島津 聖子(ファシリテーター)	看	大阪府訪問看護ステーション協会 「精神科訪問看護研修会」	2024/2/4
25		看護主体で関わる運動療法	西川 理恵子	透	南大阪透析イブニングセミナー	2024/3/21
26		精神医学	正木 慶大	精	大阪医専 言語聴覚療法学学科	5回
27		神経・生理心理学	正木 慶大	精	神戸女子大学 心理学部	3回

論文・著書

	論文・著書名	著者(全員)	所属	誌名、巻：ページ、年
1	Effect of Thyrocervical Artery Embolization for Mediastinal Hemangioma with Pleural Effusion	小島 和也、太田 勝康	内	doi:10.2169/internalmedicine.3358-23,2024

主催講演会

	講演会・勉強会名	演題名	講師名	開催年月日
1	令和5年度第5回CKD教室	腎臓に負担をかけない食事とは ーエネルギー不足に注意ー	濱野 一起	2024/2/3
2	浅香山病院精神科リレーションセンター会議第57回講演会	私たちは共に生きている ーLGBTQ性の多様性ー	桂木 祥子(NPO法人QWRC)	2024/2/3
3	第9回浅香山病院緩和ケア研修会	在宅困難ケースにおける在宅看取りの経験 ～本人の想いを叶えるために～	宮前 了輔(宮前医院)、坂上 礼(ソフィアメディ訪問看護ステーション堺中央分室堺北)、森田 節子(居宅介護支援事業所あおい)、浅香山病院緩和ケア病棟担当者	2024/2/17
4	令和5年度第6回CKD教室	薬との上手な付き合い方 ー薬の情報の大切さー	大壁 和輝	2024/3/2
5	大阪府作業療法士会堺ブロック研修会	身障・精神・老年期分野で明日から使える園芸活動	南 裕未、川村 明代	2024/3/2
6	第11回浅香山精神科研究会	講演1:「当院における統合失調症急性期治療の実践」 講演2:「児童思春期病棟における入院治療」	講演1:江藤 光弘 講演2:花房 昌美(大阪精神医療センター)	2024/3/23
7	第46回Fmθ研究会	一般演題9題、CurrentTopic1題、記念講演1題	金桶 吉起(和歌山県立医科大学生理学第一教授)ら	2024/3/30

研修医による学会・研修会発表

	発表(演題)名	発表者名	会名	発表年月日
1	意識障害と呼吸不全を認めた重症オウム病の1例	原田 晃、櫻井 佑輔、小島 和也、丸山 直美、岡本 敦子、芝壽 功行、太田 勝康	第102回日本呼吸器学会近畿地方会	2024/1/20
2	突然の腹腔内出血をきたした1例	澤 隆祐	第68回プライマリケア合同カンファレンス	2024/3/7

所属：(精)精神科、外(外科)、内(内科)、透(透析センター)、放(放射線室)、リ(リハビリテーション部)、心(臨床心理室)、看(看護部)、デ(デイケア室)、就(アンダンテ就労ステーション)